

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	少子高齢化時代における公立高等学校の施設整備と地域利用
Title(English)	Building Planning and Community Use of Public High Schools in an era of falling birthrates and an aging society
著者(和文)	下川 紘子
Author(English)	Hiroko Shimokawa
出典(和文)	学位:博士(工学), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第11297号, 授与年月日:2019年9月20日, 学位の種別:課程博士, 審査員:斎尾 直子,大佛 俊泰,藤井 晴行,那須 聖,村田 涼
Citation(English)	Degree:Doctor (Engineering), Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第11297号, Conferred date:2019/9/20, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	論文要旨
Type(English)	Summary

論文要旨

THESIS SUMMARY

系・コース： Department of, Graduate major in	建築学 建築学	系 コース	申請学位 (専攻分野)： 博士 (工学) Academic Degree Requested Doctor of
学生氏名： Student's Name	下川絃子		指導教員 (主)： 斎尾直子 Academic Supervisor(main)
			指導教員 (副)： Academic Supervisor(sub)

要旨 (和文 2000 字程度)

Thesis Summary (approx.2000 Japanese Characters)

本論文は、「少子高齢化時代における公立高等学校の施設整備と地域利用」と題し、近年全国で校舎の老朽化・長寿命化対応、公共施設としての再配置・再整備が求められている公立高等学校施設を対象に、高校施設に関する研究が非常に少ない中で、高校教育面、社会教育面、廃校地利活用面に關し、地域との関わりの中で長期間にわたり利活用可能な計画に向けた知見を明らかにしたものである。本論文は以下の 5 章から構成されている。

第 1 章「序章」では、少子高齢化時代における今後の公立高等学校計画においては、学校施設の長寿命化計画の中で概ね 70-80 年後までの利用を考慮した整備計画が求められる状況の下、多様な教育方法が展開できる空間を提供していく必要があること、超高齢社会の中では生涯学習機能をも担う可能性が高まること、更には、少子化による統廃合計画に基づく廃校地・廃校舎の利活用への対応が必要であること、といった研究の背景を述べている。このような背景を基に、全国の公立高校の施設整備に寄与すべく、高校教育面、また、高校施設を地域の生涯学習施設としてみる社会教育施設面、そして、高校が閉校となった後の施設と跡地の利活用面のそれぞれの視点から高校施設の利用実態を把握し、高校生に留まらず多様な世代が長期間にわたり利用できる高校施設の計画に向けた課題を明らかにするという目的と意義を述べている。

第 2 章「普通科単位制高校の教育課程と施設計画」では、単位制普通科を設置する全国の公立高校 20 事例を対象とし、「全日制」と「定時制」という教育課程の別に着目しながら、普通教室や少人数教育用の教室を中心に、資料及びヒアリング調査から利用状況を調査し分析をおこなっている。単位制高校は普通科においても生徒の興味関心や進路に応じて個人のカリキュラムが選択可能なくみであり、将来個人主体の多様な学習者を想定した弾力的な高校教育がより拡大していく際に、現状の単位制、特に学級の別を持たない定時制の運営を調査対象とすることは有効であることを述べた上で、教室の利用率でみた場合、全日制のホームルーム以外に設けられた大小様々な講義室の利用率平均が相対的に高くない等、学級での座学を重視する近年の高校教育の運営と近年計画された校舎の空間との間にずれが生じているといった特徴を把握している。今後ますます少人数クラスによるアクティブラーニングが増加する中で、将来的には、低利用の教室や余裕教室が少なくなる側面もあり、少子化と教育の多様化を配慮した計画が重要となること等の課題を明らかにしている。

第 3 章「高校施設における生涯学習の実施と課題」では、高校で実施される生涯学習活動に着目し、高校でおこなわれている生涯学習講座と聴講生制度について公立高校の使われ方を調査し分析をおこなっている。まず、公開講座や聴講生受入れの実施、または公共施設が複合している等、地域住民と施設を共有すると考えられる全国の公立高校 28 事例を対象に、生徒と一般の利用者が施設の中で混在し学習している状況について、地域住民の施設利用実態と課題を、平面図調査から明らかにしている。次に、3 校の教職員、実際の聴講生、及び教育委員会に対し、聴講生制度の運営や空間の課題についてヒアリング調査を行い、学習をサポートする教員側の負担、地域住民の増加を想定した場合の施設側のセキュリティ対策、生徒と地域住民双方が利用する共用空間の計画等の課題を明らかにしている。

第 4 章「高校廃校地利活用の実態と課題」では、2000 年度「県立高校改革推進計画」によって廃校地・廃校舎となった神奈川県内の全 24 件を対象とし、行政資料の整理、現地調査、県教育委員会及び対象のうちの 8 件の地元自治会長に対してヒアリング調査をおこない、各廃校事例の利活用実態の特徴、また、利活用決定プロセスの課題を分析している。公立高校の性質上、小中学校と比較すると、敷地が広大であること、利用圏域・通学圏が広域であるため周辺地域住民の学校への意識は希薄であるといった特徴を述べた上で、利活用の実態としては、公的利用は図られているものの、地元自治体や地域住民の活用意向は反映されにくい状況を捉えている。特に、廃校選定と利活用プロセスにおいて、高校の設置者である都道府県と地域を知る市町村がより連携し、立地特性を考慮した住環境の見地から整備計画を進めるべきとの課題を明らかにしている。

第 5 章「終章」では、各章での結果をまとめ、本論文で得られた知見を総括している。

備考：論文要旨は、和文 2000 字と英文 300 語を 1 部ずつ提出するか、もしくは英文 800 語を 1 部提出してください。

Note : Thesis Summary should be submitted in either a copy of 2000 Japanese Characters and 300 Words (English) or 1copy of 800 Words (English).

注意：論文要旨は、東工大リサーチリポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。

Attention: Thesis Summary will be published on Tokyo Tech Research Repository Website (T2R2).

(博士課程)
Doctoral Program

論文要旨

THESIS SUMMARY

系・コース： Department of, Graduate major in	建築学 建築学	系 コース	申請学位 (専攻分野)： Academic Degree Requested	博士 Doctor of	(工学)
学生氏名： Student's Name	下川絃子		指導教員 (主)： Academic Supervisor(main)	斎尾直子	
			指導教員 (副)： Academic Supervisor(sub)		

要旨 (英文 300 語程度)

Thesis Summary (approx.300 English Words)

In Japan, environments surrounding high schools are expected to substantially change in the future because of the declining birthrate, aging population and reformation of high school's education. In addition, public high schools are promoted extending service life of facility by the government. To make high school facilities more usable with local residents on a long period, the actual situations including usage of closed schools should be collected. However, there is little previous researches investigating high school facilities and public use.

The purpose of this study is to obtain basic data contributing to planning of future high school's facilities which are open to local communities by comprehensively analyzing public high schools from three aspects; current usage of facilities in public high school under current education, perception of both current auditory students and faculties of the high schools and relationships between closed public high schools and surrounding communities.

1) This dissertation analyzes 20 credit-based system high schools aiming at independent learning of the students. The schools consist of Japanese conventional full-time system that emphasizes the unity of a class and part-time system in which the individual students move among classroom to attend courses. The author clarified actual use conditions of the classrooms and problems of students' place for future expansion of individual learning, out of materials collected from the school and interview with faculty member.

2) This dissertation analyzes lifelong learning for local residents in high school. The author conducted interview with the board of education, faculty of three public high schools accepting local auditors, and the actual auditors to clarify administrative issues, architectural issues and influence of auditors to high school students.

3) 24 closed schools of Kanagawa Prefectural high school were researched to address how to maintain the publicity as a formerly public land. This analysis is based on the actual situation of utilization from literature survey, field survey, and interview with the board of education and chairman of local community around closed school. This dissertation also addresses impressions of local residents when the existing closed school buildings were used publicly or when they were used privately.

備考：論文要旨は、和文 2000 字と英文 300 語を 1 部ずつ提出するか、もしくは英文 800 語を 1 部提出してください。

Note：Thesis Summary should be submitted in either a copy of 2000 Japanese Characters and 300 Words (English) or 1copy of 800 Words (English).

注意：論文要旨は、東工大リサーチリポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。

Attention: Thesis Summary will be published on Tokyo Tech Research Repository Website (T2R2).